



# 加吉だより

加古小学校通信  
令和5年6月号  
No.10(326号)

## 「この人はこれでいいよね」

校長 吉田 博明

### <LGBTQの授業に取り組むわけ>

先月、今年度のLGBTQの授業を行いました。今回の6年生の授業は、「カミングアウト」や「アウティング」について、です。少し早いかもしれませんが、中学校で習うかどうかかわからないので、小学校最後の授業で触れることにしました。「LGBTQの授業を加古小学校で行いたい」、そう思ったのは、「カミングアウト」や「アウティング」の危険性を知ったからでした。いろんな講演会や研修会で学べば学ぶほど、他の人権課題とは違った難しさを感じるようになりました。当事者の方々は、自分自身の悩みを一番知っていてほしい親に、一番言うことができないのだそうです。なぜなら、もし受け入れてもらえなかったら、生きてはいけなからです。だから、決して誰にも知られてはいけなからです。日本の研究では、LGBTQの方の自殺念慮（死にたいという思い）を持った経験のある人は約60%~70%（10代では65.7%）、実際に自殺未遂の経験がある人が、約9%~14%（10代では16.2%）というデータがあります。「命」に関わる大事な人権課題。小学生のうちから、正しい知識を身に付け、テレビや本の中だけでなく本当に生きている当事者の人がいるという事実を知ること。そのことがどれだけ大切なことか。そう思ったからでした。

当日は13名の方が参観してくださいました。急な案内にもかかわらず、ご参加くださりありがとうございました。国会でもLGBTに関する法案が提出されましたが、前田さんも、大人にこの人権課題を理解してもらおうことがとても大きなことだと思っておられます。少しずつ、みんなが安心して暮らせる世の中になっていくために、小さな歩みを続けていきたいと思えます。低学年も含め、いただいた保護者の方の感想です。

○女の子やけど男の子になって、おちんちんはないけど、ちゅうしゃしておとこのこになるやつー。だから男の子になったんやって、なれるんやでー。ビックリやろーって話していました。素直にそんな人がいて、そんな風に見えることにビックリしていました。

○自分が知らない性があって不思議に思った。正直よく分からない話もあったと言っていました。人は「違い」に対して敏感になってしまい、上手く理解することができなから受け入れられない場合もあると思えます。今後、授業などで少しずつ理解を進め、ありのままの姿で過ごせる世の中になったらいいねと話しました。

○前田良さんの話を聞いて、子どもはいろんな人がいるんだなあと、まずは思ったようです。その話に対して、良くも悪くもなく、理解してあげたいという気持ちがありました。

○お話を聞いていないのでよくわからなからが…。今は、心と体が同じではない人も多くな

っている。その人らしく生きられるように、見守ってあげるのがいいかな？その人らしくいられるように、周りの人も理解してあげることが大切だと思う。でも、女らしく…とか、男らしく…ってのもあるし、難しい問題かな？男の子でも女の子でも、誰にでも優しく声をかけられる人になってほしいです。困っている人を見かけたら、優しい声かけができたり、気遣いのできる人になってほしいです。

○やりたい仕事をして、楽しく生きられたらいいね。自分の意見を大事に、友だちの意見も大事に、自分らしく頑張ってください。

○やりたいことを自分で決めて、それに向かって突き進むことは大事だと思います。周りに流されず、周りに優しさを持った子でいてほしいです。

○先日は参観させていただきありがとうございました。言葉について考えるという授業で、「もし友だちに打ち明けられたら」という話で、子どもたちにもわかりやすく丁寧に話しされていて、大人の私も一緒に学べて良かったと思いました。家に帰り子どもに話すと、「自分に言われたら、その子の話を聞いてあげる」と言っていました。前田さんの「受けとめる」ということ。子どもは、今まで前田さんの授業を受けてきて、授業は楽しかったとか、ネットで前田さんを検索して私に教えてくれたり、今回の授業参観も良いから行っておいでと言ってくれたり、子どもの方が私よりもLGBTQの方についていろいろ学んで身近なことなんだなあ思いました。前田さんが直接子どもたちの前でお話して下さったことで、一人一人が違って一人一人がとても大事な存在なんだということが、改めて皆の心にも届いたと思うので、お互いを尊重し、相手を思いやる言葉をかけてあげられる人になって、少しでも辛かったり悲しい思いをする方が少なくなる世の中になっていけばいいなと思いました。

○子どもから「選べる」＝「優しさ」ではない、と聞いて、ハッとさせられました。実際、私の身近に、「女でもない男でもない、『私』なんだ」という人がいて、「女としての私でもないし、男としての私でもない。私は私。」と言っているのを聞いて、感覚的にはわかるのですが、言葉にしろと言われると上手く表すことができず…。私自身は、その人はその人のままでいいと思えるのですが、社会に当てはめる？生活の中では、やはり「男」と「女」にすべてわかれているということ、その人と話してすごく感じたことがあります。小さなころから「男の子」「女の子」という概念で育ってきたので、無意識に「男の人はこう」「女の人だから…」と思い込み使っていることがあります。

このような授業が子どものころからあることで、「こういう人もいるんだ」ということが知れ、とてもいいと思います。また、親の時代とは違ってきている考えや社会の流れを、こういう授業で学ぶことは、これから生きる子どもたちにとって大切だと感じます。

低学年では少し難しいかもしれませんが、毎年触れていくことで理解を深めていけるのではと思っています。このような機会をくださり、私も勉強することができ嬉しいです。家族の中でもLGBTQについて思っていることは様々で、子どもと話すいい機会をくださりありがとうございました。自然と「この人はこれでいいよね」と思える人に、自分とは違った考えや感じ方の人にも受け入れられる人に育ってくれたら嬉しいなと思います。